

第七回市民プロジェクトCグループ

住宅・ビジネス機能

メンバー：渡辺 横山

発表：青木 記録：岡田

背景

- ①今後の生活不安がある（60代・70代のピンピン老人）
 - ・老人だけの世帯が多くなったため、交流が減り、寂しい
 - ・30代・40代の倅や嫁に迷惑をかけたくない
- ②大学生がお金を使うための場所が少ない
- ③若い世代の新規街中居住が出来ない
- 団塊の世代が元気 ○大学生が大勢いる

目的

- ①ピンピン老人の労働力の再発見・再活用
 - ・生活不安の解消（買い物、1人暮らし、若夫婦との同居の肩身の狭さ、介護問題、持病の悪化、体が動かなくなっていく不自由さ）
- ②大学生の学びを定着させ、技術の向上を図り、お金を稼ぐことが出来るようにする
 - ・若年層の財布のひもをゆるめさせる
- ③若い世代の新規定住促進

計画

- ①居住施設について（ピンピン老人用、若い世代用）
- ②コミュニティービジネスセンターについて
- ③地域と新潟医療福祉大学の密接なつながり、組織づくりを行い、若者の出番を増やす
 - ・社会福祉学科：介護講習・健康スポーツ学科：体操教室・看護学科：母子支援など

効果

- ①②ピンピン老人同士の交流を促進し、生活不安の解消、健康増進
 - ・空いた戸建住宅を利用し、子育て世代の定住を促進し、家賃を高齢者住宅に住んでいる大家に納める。老人は納められたお金を使い、住宅家賃にあてたり、大学生の講習料金にしたり、買い物を行うためのおこづかいとするため、経済が活性化する
 - ・30代・40代の倅、嫁は安心して老人をあずけることが出来る
- ③大学生が地域に貢献することにより自己肯定感が高まり、社会に出るための自信がつく

手法

- ・コミュニティービジネスセンターを設置し、人的財産の発見・活用
- ・社会福祉法人、民間企業による住宅施設の建設
- ・まちづくり会社による住み替え促進
- ・地域包括支援センターによる在宅老人への対応